

人と猫の共生を目指して

—それぞれの立場でできることを

愛くるしい表情で私たちの心を癒やす猫。しかし、ふん尿被害など猫に関する苦情も後を絶ちません。猫が好きな人も苦手な人も、誰もが住みやすいまちに向けて考えてみませんか。

「人と猫との共生に関する条例」が制定

多くの猫が家族の一員として家庭で暮らす一方で、無責任な飼育放棄などにより、猫が外で繁殖してしまうなど「飼い主のいない猫」が増えています。アニパル仙台（動物管理センター）に收容される飼い主のいない猫の数は、年間およそ700匹。市では、譲渡会などで新しい飼い主を探しているものの、収容数が多く全ての命を助けることができない状況が続いています。

また、ふん尿や鳴き声など、昨年度に市民から寄せられた苦情・相談件数は844件あり、年々増加しています。猫の飼い方に関する知識不足や無責任な餌やりなどが、生活環境の悪化や住民トラブルの要因になっています。

望まれない命が生まれないために

こうした状況を踏まえ、「仙台市人と猫との共生に関する条例」が6月に制定され、令和2年4月1日から施行されます。条例では、正しい飼い方に努めることや飼い主のいない猫の適正な管理などについて規定。市民の理解と協力の下、市、飼い主、販売業者、獣医師等が一体となって取り組むことにより、人と猫とが共生する社会の実現を目指します。



繁殖力が強い猫。飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施さないで餌やりをすることは、さらなる繁殖を促し、不幸な命が生まれる恐れがあります。このため、飼い主のいない猫を排除するのではなく、地域で管理された猫として一代限りの命を全うさせ、将来的に地域から飼い主のいない猫を無くすことを目指す地域猫活動が大切になります。活動に当たっては、まず地域の状況を把握し、住民による話し合いを行い、合意を得ることが重要。その上で、飼い主のいない猫に不妊去勢手術を行い、決まった時間と場所での餌やりやトイレ設置などのルールを決め、地域にお知らせします。手術のための猫の捕獲など、経験のあるボランティア

猫が好き、苦手で抱く感情はそれぞれであっても、誰もが快適に猫と共に暮らせるまちづくりを目指しましょう。



飼い主のいない猫の譲渡会や不妊去勢手術の助成を行っています

◆猫の譲渡会

●日時＝【金曜日の猫の譲渡会】8月9日～30日の毎週金曜日10:00～12:00 【しっぽゆらゆら猫の譲渡会】8月31日(土)10:00～12:00 (いずれも12月まで開催予定) ●会場＝アニパル仙台 ●持ち物＝印鑑・キャリーケース・記入済みの猫譲渡チェックリスト(市ホームページからダウンロード可)・賃貸住宅・集合住宅にお住まいの方はペットの飼育可が証明できる書類

★アニパル仙台では、不妊去勢手術を行うために飼い主のいない猫を保護する捕獲器の貸し出しや、地域猫活動に関する出前講座なども実施しています

◆仙台市獣医師会による不妊去勢手術の助成

●対象＝飼い主のいない猫を保護し仙台市獣医師会協病院で不妊去勢手術を施した個人または団体等 ●助成金額＝1頭につき、雄猫4,500円、雌猫9,000円 ●詳しくはお問い合わせください
問仙台市獣医師会事務局 ☎387・5225

飼い猫に関するルールとマナー

■室内で飼いましょう

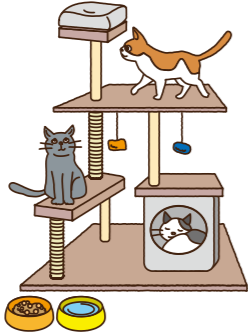
交通事故や感染症から守り、また近隣住民に迷惑を掛けないように、屋内で飼うことを徹底しましょう。猫は屋内でも、工夫次第で幸せです

■最期まで責任をもって飼いましょう

猫が命を終えるまで適正に飼いましょう。もし飼えなくなった場合は、新たな飼い主を見つけるようにしましょう

■不妊去勢手術を実施しましょう

万が一外に出てしまっても、望まれない命が生まれないように、不妊去勢手術をしましょう



■名札を付けてあげましょう

猫の身元が分かるように名札を表示しましょう

地域全体で猫の問題に向き合う —花壇大手町町内会の皆さんの取り組み

青葉区の花壇大手町町内会では、平成29年から地域猫活動に取り組んでいます。今野均会長は「地域に猫が増えてきて、花壇へのふん尿や庭が荒らされたなどの苦情も増え、住民同士のトラブルに発展しました。地域の問題として何とかしなければいけないと話合いを行い、ボランティアや市民センターなどの協力を得ながら地域猫活動に取り組み始めました」ときっかけを話します。



▲今野均さん

ボランティアとして、飼い主のいない猫を保護し不妊去勢手術を行い、元の場所に戻す活動を行う樋口佳絵さんは「人と猫とが共に暮らすためには、現時点では不妊去勢手術がベストな選択。そして、猫に餌をあげて



▲樋口佳絵さん

いる『餌やりさん』の協力と、近隣住民の活動への理解が不可欠です」と、協働での取り組みを教えてください。



▲太田尚吾さん

トイレや餌やりなどの面倒をみている須郷哲二さんも「他の動物が寄ってこないよう、餌を与えたら片付ける、周囲を清潔にすることを心掛けています」と話します。また、町内会では回覧板などで活動をお知らせし



▲須郷哲二さん

また、ふん尿被害を拡大させないためにもルール作りは必要とのこと。「猫が嫌いな人のことも考え、トイレの場所や餌の与え方について、きちんと町内で話し合うことが大切」と太田尚吾副会長。

「地域猫活動はすぐに結果が出るものではありません。時間をかけた取り組みが必要です。一人一人が正しい猫の飼い方について意識してほしい」と今野会長。行政とそれぞれの地域の方が協力し、猫の問題に取り組んでいけたらと皆さんは話してくれました。

この特集に関するお問い合わせは、アニパル仙台 ☎258・1626、FAX258・1815